

幼児教育長期派遣通信2学期号

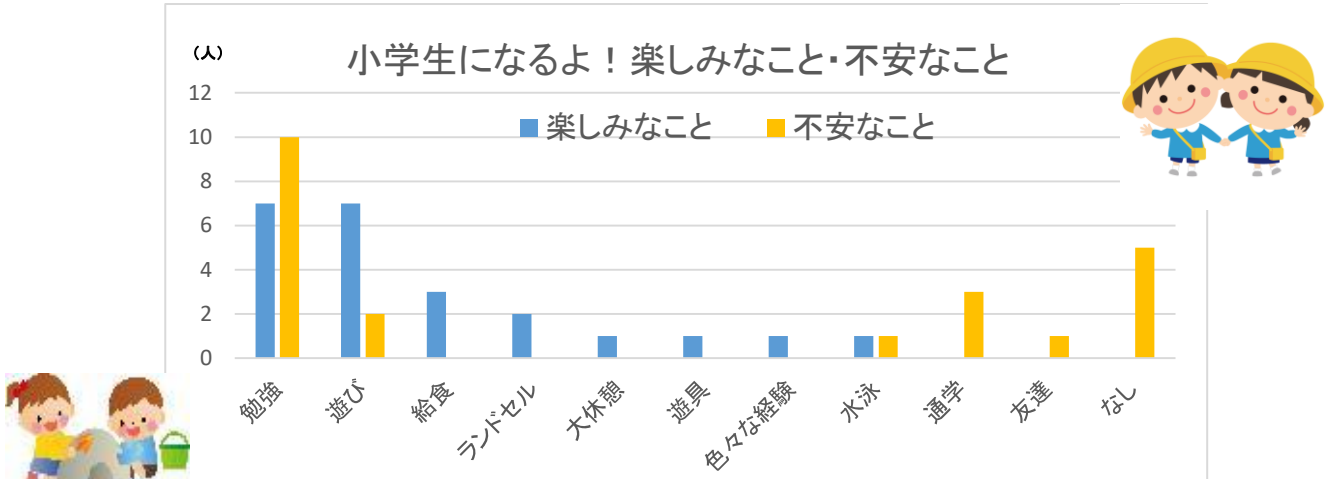
発行 令和2年1月24日

府中市立旭小学校 青山 俊美（派遣園：広島大学附属三原幼稚園）

1学期号では、幼児期の子供たちは、遊びや生活を通してたくさんのかんことを総合的に学んでいることをお伝えしました。その子供たちが小学校に入学し、今までの育ちや学びを生かし、小学校生活や授業で生き生きと活躍するためには、入学当初段階での工夫と充実が必要だと考えます。2学期号では、研修での学びを踏まえて、私が考えている子供たちの育ちや学びを繋ぐスタートカリキュラムについてお伝えします。

派遣園で、4月に1年生になる園児に聞きました。

スタートカリキュラムは子供たちの姿が出発点です。本研修で、派遣園での保育体験と、本校に入学してくる子供たちの参観や園・所の先生方との交流から、子供たちの学びと育ちを見取ってきました。加えて子供たちの気持ちも聞き、スタートカリキュラムに生かしたいと思いました。そこで派遣園の子供たちに、「もうすぐ小学1年生だね！楽しみなことは？不安なことは？」と聞いてみました。結果が下のグラフです。



派遣園では、「勉強は楽しみだけど、テストで0点を取ったらどうしよう」「勉強はたくさんあるから一つならいいな」など、楽しみな反面、不安だと答えた園児がいました。その他にも楽しみは「大休憩に友達と遊びたい」「給食を食べたい」こと。不安なことは「朝早く起きることができかな」「一人ぼっちにならないかな」と話していました。子供たちは希望や期待と同時に、不安があり、特に経験していないことへの不安が大きいと分かりました。

また、国立オリンピック記念青少年センター研究紀要 青少年フォーラム第7号では、『通学（66%）、給食（63%）、友達（59%）、国語の勉強（48%）、休み時間（48%）などに不安が多く見られ、運動（33%）や掃除（22%）についての不安は少ない』と書かれていました。

二つの調査を比べ、子供たちの期待や不安は育った環境で異なるのではないかと考えました。

小学校には様々な環境で育った児童が入学してきます。そこで、入学当初には、どの児童も「学校って楽しい」と安心し、「やればできる」と自信をもち、「もっと知りたい。学びたい」と主体的に生き生きと小学校生活や学習をスタートして欲しいと思いました。そのために、児童が安心し、自分の力で緩やかに達成感のある段差を少しずつ上り、人間関係を築きながら学習へのきっかけが生まれる等の視点で、学習環境を見直していくスタートカリキュラムを考えようと思いました。

安心



小学校って楽しいな。

自分でやれる。何でもできるよ。

自信



主体性



もっと色々なことをしてみたい、学びたいな。

スタートカリキュラムで育ちや学びを繋ごう

緩やかな
段差



スタートカリキュラムで大切にしたいこと

- ・ゼロからのスタートではなく、幼児期に育まれた育ちや学びを効果的に繋ぐこと
- ・緩やかな段差で達成感のあるスタートにすること
- ・安心した環境の中、子供達一人一人に自信と主体性を育むこと



スタートカリキュラム作成に当たって工夫したこと

安心な環境づくり

入学期の子供の姿が出発点

園所に出向き、子供の様子を見、先生方と交流し、子供の姿を聞きました。そこからどのような手立てが必要かを考えました。

複数体制での見守り

担任外の先生、6年サポーター、保護者や地域ボランティアの方に見守り支援をお願いします。

子供の実態に合う日課

朝の支度⇒自由遊び⇒人間関係づくり（ゲームや手遊び）⇒教科学習⇒一日の振り返り

府中市立旭小学校 スタートカリキュラム

育目標 「かしこい子 やさしい子」

4

小学校に慣れる 幼児期に育まれ

育つてほしい児童の姿

- 入学当初の児童の姿
- 小学校の学習や活動に期待感と不安を持っている。
 - 相手の話を聞き理解するとともに、自分の思いや考えを相手にわかりやすく伝えようとしている。
 - 遊びや活動の中で自分たちに必要な約束や決まりを作り、守りながら遊ぼうとしている。

自信を育むために

幼児期の遊びや生活を通した総合的な学びに近い、生活科を中心とした学習環境の見直し

- ・新しいことはどうしたらよいか、今までできていたことを生かしながら考える場を設けます。
- ・児童実態と教科内容から、モジュール学習を導入し、少しずつ学習環境に慣れ、「やればできる」と成長を実感できるように週案を工夫します。

4月8日（水）

町別会（登校班で下校）
一斉下校
一年生給食開始

♥あさひんタイム
自由遊び後教室に戻る。

♥手遊びや歌遊びをする

♥☆①特別活動「1年生になって」
・1年生になって頑張りたいことを話す

♥☆①生活「がっこうのことがしりたいな」

・学校のはてなを出し合う

・知っていることやできること、知りたいことやしたいことを出し合う

☆②生活(0.5)「がっこうのことがしりたいな」

・学習について話し合う

☆③国語(0.5)「あさ」

・読む・話す・動作化する

主体的に活動するために

児童が自ら考えて活動できるような環境づくり（ひと・もの・こと）と支援

- ・児童が幼児期を振り返り、出来るか、どうしたらよいかを考えて実行できるように支援します。
- ・見守り、育てる支援としてのサポート体制にします。



子供たちが主体性を持ち、意欲的に学校生活を送れるよう、学校全体で意識統一し、幼稚園や保育園と連携し、保護者、地域の協力を得ながらスタートカリキュラムを進めたいです。

乳幼児教育支援センターから

子供達はいろいろな思いをもって、小学校に入学します。育ってきた環境や入学する学校の状況等様々です。そのような子供の育ちや学びを理解し、安心な環境（人的環境も含む）を学校全体でつくり、幼児期に学んだことが生かされるように、小学校入学当初の工夫をすることが大切です。